

アンソロジー詩集  
『命が危ない 二〇〇人詩集—願いの力—』  
ご参加案内

\* 出版内容—A5判、発行部数…三〇〇〇部、定価…二、一〇〇円(税込)  
\* 発行日—二〇一一年六月一日

\* 編者—佐相憲一(責任者)、中村純、宇宿一成、垂久津歩  
\* 監修—鈴木比佐雄

\* 発行所—(株) コールサク社

〒173-0004 東京都板橋区板橋2-63-4-509

電話 / 03-5944-3258

FAX / 03-5944-3238

\* 応募方法—参加詩篇と承諾書をコールサク社に郵送でお送り下さい。採否はご一任下さい。  
承諾書の略歴は生年(西暦)、生まれた都道府県名、現住の都道府県名、代表著書(計三冊まで)、所属詩誌団体名(計三冊まで)を記載してください。  
FAXは改行・行間の不明や詩行の欠落などのトラブルの原因になりますので  
ご遠慮ください。詩篇はメールでも可能、「ワード」にして添付、ルビは振らずにかっ  
こ内にひらがなで入れておいてください。ただし校正用としてプリントした詩篇(ル  
ビ、行空き等は手書きで入れてください)と略歴、承諾書を必ずお送り下さい。

\* しめきり—二〇一一年四月十五日(必着)

\* 参加費—一頁四〇行(一行二五字)で一万円、二冊贈呈。二頁八八行で二万円、四冊贈呈。  
こちらから掲載される詩篇の校正紙が届きましたら、コールサク社の郵便振替用紙  
にてお振り込みをお願い致します。

\* 全国書店に配本—著者と全国の新聞・雑誌記者、書評担当者などに贈呈。

\* よびかけは「COAL SACK」六十八号にも掲載されています。

お問い合わせは(株)コールサク社まで。

キリトリ線(参加詩篇と共に郵送ください)

『命が危ない 二〇〇人集—願いの力—』

参加承諾書

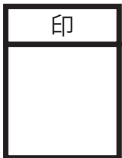
応募する詩の題名	
氏名(筆名)	
詩人名の読み仮名	
本名	
生年(西暦)	一九 年
生まれた都道府県名	

現住所(都道府県名からお願いします)※	
代表著書(計三冊までとさせていただきます)	
所属詩誌団体名(計三冊までとさせていただきます)	

※現住所は都道府県・市区名まで著者紹介欄に掲載します。  
校正紙をお送りしますので、すべてご記入ください。

— 以上の略歴と同封の詩篇にて、『命が危ない 二〇〇人集』に参加することを承諾します。

印



# 『命が危ない二〇〇人詩集―願いの力―』刊行趣意書

二十一世紀も十一年目に入ります。

ある方面の人権意識や市民運動や市民レベルの国際交流など、前進したと言える分野もあるでしょう。こどもの権利条約や男女共同参画社会基本法などの認識度もいくらかましになったと言えるかもしれません。

戦争はまだなくなつてはいませんし、軍国主義的なものの復活の恐れはあるものの、それでも、「戦争が当たり前」だった一世紀前の国際認識とは大きく変わり、どこか言い訳をして大きな軍事力で侵略戦争をして、世界の大多数の人々がそれを非難し抗議行動をして、結局は侵略国の思い通りにはいかない世界には前進しました。

しかし、日本社会の内部を見ると、経済は疲弊し、内需が冷え込んだまま、産業構造もいよいよびつになり、政治状況も混迷を深めています。

高齢化社会という名で煽られ、「大変だ、大変だ」と長寿を喜ばないような風潮が醸成されました。

若い人には仕事がなく、システムに要求される能力以外は切り捨てられて、富裕層と下層の格差は拡大しています。人生これからのはずの若い層が、ごくひと握りのラッキーな人以外は、ともすると自分に自信や希望がもてなくなるような社会になっています。

壮年層も生活苦で借金、過労、ノイローゼなど深刻です。

自殺者が公式統計でも約三万人という状況が続いています。

画一的で殺伐とした商業主義的風景がまちな生活をゆとりのないものにして、農村では過疎や農業衰退が深刻です。

地球環境や地域環境への一般市民の意識は高くなつていますが、もつとも影響が大きい産業構造自体がそれと矛盾したままです。

かわいらしいこどもたちは大人社会のさまざまな矛盾にさらされて、悲惨な事件の犠牲者になったり、経済格差や民族差別などが反映した中にいます。いじめやひきこもり、学力低下や体力低下なども深刻です。

そんな心の寒い時代を反映してか、書店のスペースに占める詩集の割合も信じられないほど小さくなつています。「詩なんか何の得にもならないからいらぬ」という風潮はそのまま人の心の繊細さを軽視する社会となつていのではないのでしょうか。

人間は古来、衣食住だけで生きて来たものではありません。生活や労働や祈りや人生の中で、うたつたり、嘆いたり、喜んだり、悲しんだり、その声を文字にして伝え合つてきました。一人の人生の限られた経験

だけでなく、文学や映画や演劇や音楽や絵画などの芸術作品を通して他者の経験や心を自らの中にとりこんで共感したり考えさせられたりして、自分の人生や心を豊かにしてきました。もし、経済効率優先の冷たい社会がさらに進行して、安易な娯楽だけがはびこり、「芸術なんてくだらない」と抹殺されていくとしたら、実に悲しいことです。

このような否定面が目立つ一方で、日本の詩の現場に目を移す時、社会の表面には見えにくいところで実は驚くべき豊かな営みが日々継続的にひろがってきたことが明らかになります。

戦後詩が華々しく世の中の表舞台でもてはやされた時代は去りましたが、水面下では多くの活発な詩運動が全国津々浦々で展開されてきました。いまも無数のすぐれた作品が日々どこかで生まれています。本当に詩文学を愛し、生きる悲しみや喜びを大切に心の輪です。

渦巻くさまざまな様相、二十一世紀はじめの社会と日常生活、人生、内面の葛藤や矛盾、悲しみ、喜び、…。そういったものただ中で、私たちはここに「命」の詩集を刊行します。

さまざまな問題すべてに関わる究極のキーワードとしての「命」。

こどもからお年寄りまで、ひとりひとりの生活や人生や夢に耳を澄ませて、経済効率優先の過度の弱肉強食社会からこぼれ落ちていく大切なもののひとしずくひとしずくをすくいあげて刻印することは、物事の表層の奥にある本質を感じる詩人の仕事です。

どこかの誰かが命の声を発している。あるいは、自分自身が声を発している。その声を詩作品の形で届けます。

人間は全員、哺乳類として女性の体から生まれますが、最後は必ず一人で寿命を迎えます。その絶対的な孤独の中で、お互いが支えあい、いたわりあい、励ましあって、それぞれの独自の人生を豊かにしていくのでしょうか。

そして、二十一世紀はそうした心が真に生きる社会になつてほしいという願いが、列島の津々浦々からほのかにたちのぼつているのではないのでしょうか。詩は、本来、そのような生命の本質をもつとも深く、多彩な言葉で表現するとても大切なものではないでしょうか。

二十一世紀に生きる人々がこのアンソロジーを読んだ、心の声、願いの力を感じてもらえればいいですね。

(佐相憲一)

## へまの詩人

全国各地の詩人の皆さま、こんにちは。日頃のさまざまな活躍、ご健筆ぶりを拝見して励まされております。

このほど右の趣旨で「命」をテーマに、現役の詩人の皆さまの生きた言葉で綴る新しいアンソロジーを計画いたしました。

現在、この国の社会にはさまざまな問題がありますが、どれをとって見ても、結局行き着くのは「命」の視点ではないでしょうか。身近なところでは、幼児虐待などこどもたちをめぐる社会の闇があります。また、経済状況の悪化に伴う生活苦や、複雑な世の中のコミュニケーションの危機、心の病、医療現場の痛苦の声、農業軽視の産業構造、環境破壊なども深刻です。

鋭く突きつける詩も、優しく語る詩も、淡々と展開する詩も、一つの命をクローズアップする詩も、全体を俯瞰する詩も、優しい恋の詩も、社会風刺の詩も、さまざまな手法の詩の共演で、いまこそ時代の声を詩文学の場から届けようではありませんか。裏面の規定もお読みになつていただき、ぜひあなたも、とびきりの作品でご参加ください。

### 【編集案】

- 第一章 こどもたちはいま・・・こどもをめぐるとあれこれ
- 第二章 愛と孤独・・・恋愛、夫婦愛、友愛、孤独、自殺、連帯
- 第三章 働く現場・・・労働状況、過労、失業、ワーキングプア

- 第四章 寿命まで・・・医療、福祉
- 第五章 農と命・・・農業、食料
- 第六章 動物界・・・生きもの全般

※ 投稿、推薦の状況等により変更あり